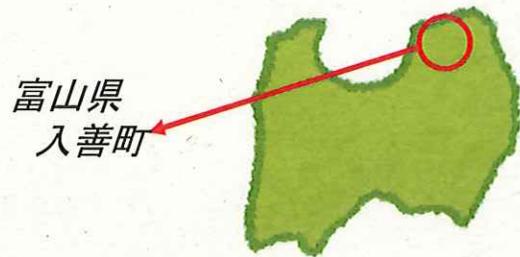


# 産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(29年度:計画作成主体:入善町農業再生協議会)(富山県)

## 取組の概要

対象品目 : 水稲 (産地面積68.8ha)  
 主な取組主体 : (農)島  
 成果目標 : 生産コストの10%以上の削減  
                   基準 (H28年度) 118,099円/10a  
                   目標 (R1年度) 106,252円/10a  
 導入施設等 : 整備事業 (乾燥調製施設導入)



## ポイント

### 【産地の課題及び取組方向】

水稲栽培において、生産コストの増加が課題となっている。そのため、入善町島地区においては、直播栽培等の省力技術を導入するとともに、乾燥調製作業の集約化により、産地としての水稲生産コストの10%以上の削減を実現する。



### 【産地の体質強化に向けた方策】

- ①集落営農組織(法人)への、機械作業等の集積・集約化
- ②水稲生産コストの削減による持続可能な地域営農体制の確立
- ③生産者の所得向上による産地の体制を強化

## 産地体制

地域の関係者(入善町、みな穂農業協同組合、富山県新川農林振興センター)が一体となり、事業を推進

## 地域における独自の取組

### 〈主な取組〉

- ・有休ハウスを利用したミニトマトの栽培
- ・里芋、ピーマンを栽培し、農閑期に収穫、販売
- ・乾燥調製作業の集約化に伴う機械の導入により乾燥調整作業の作業受託や作業効率の改善

## 取組成果

### 【事業実施による直接効果】

- ①乾燥調製施設の導入支援による初期投資の節減効果と機械の集約化による低コスト化
- ②直播面積の拡大による生産コストの削減

### 【事業実施による間接効果】

- ①水稲の作付面積が拡大することによる更なる生産コストの削減

**生産コストが  
15.8%削減  
(達成率157.5%)**

